「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

胴串 ―どぐし―

Autumn 2025

Vol.51

特集

友好都市 フランス シャルルヴィル・メジェール市へ

デュカル広場

特集 友好都市 フランス シャルルヴィル・メジェール市へ

飯田市が人形劇を通じて友好提携を結ぶフランスのシャルルヴィル・メジェール市とのつながりが37年を迎えました。2年に一度、当地で開催される世界人形劇フェスティバルにあわせ、これまで以上に相互交流を図るため訪ねました。

9月20日～23日に熊谷邦千加教育長が、友好都市提携を結んでいるフランスのシャルルヴィル・メジェール市を訪問しました。1988年に友好都市提携を盟約して今年で37年目となり、これからも人形劇を通じた交流、特にこどもたち同士の人形劇の交流の発展を願い、シャルルヴィル・メジェール市長ボリス・ラヴィニョン氏へ表敬訪問し、懇談をしました。ラヴィニョン市長は、2018年に飯田市を訪れた際に龍江地区のこどもたちとの交流や旧市公民館前に植樹した際にとても温かい歓迎を受けたと懐かしそうに話をされました。

またAVIAMA（人形劇の友・友好都市国際協会）のルドゥ会長とも懇談し、人形劇文化の発展のための意見交換をしました。

2年に1度開催される同市の世界人形劇フェスティバルの期間でもあり、世界中から集まった人形劇も観劇しました。屋内劇場だけでなく、仮設テント、屋外広場や路地の片隅など街の至る所で様々なパフォーマンスが繰り広げられていて、中には日本のサムライを題材にした公演もあり、観劇者が笑顔で観劇している様子はとても嬉しくなりました。

フェスティバルは、10日間開催されていて、平日は市内の小中学校からもクラス単位で人形劇や人形美術館を見学に訪れていたり、夕方からの公演は大人だけで会場がびっしり埋まっていたり、人形劇が街の催しとして根付いているのだと感じることのできた貴重な体験の機会になりました。

シャルルヴィル・メジェール市長ボリス・ラヴィニョン氏と熊谷邦千加教育長

飯田文化会館 人形劇のまちづくり係
永田麻美子

フェスティバル開催期間中、中心市街地は歩行者天国になり、路上でたくさんの作品が上演される。観客は間近で見られる人形劇に夢中

ウィンストン・チャーチル広場にある人形遣いのからくり時計。「アイモンの4人の息子」の伝説を午前10時～午後9時までの毎時正に1話ずつ上演している

どこからともなく現れた巨大な人形。鳥なのか妖怪なのか…。街中がフェスティバルである雰囲気が伺える

シャルルヴィル・メジェール市内にある「飯田通り」

人形劇以外のパフォーマンスもあり、コメディータッチの内容に大人もこどもも大笑い

お店のウィンドウを人形などで飾る様子は街のあちこちで見られる。訪れた人々を歓迎しようと市内のお店が工夫をこらす

列車の中でのシーンを稽古するユースクラブ「星の音 ほしのね」の小室菜月さん（写真手前）、大前秋桜さん

突撃 人形劇のゲ・ン・バ Part 31

中学生から大学生を対象にした人形劇講座「ユースクラブ」に飯田市内の高校生2人が参加し、作品をつくっているとの情報をキャッチ！　人形や小道具づくり、稽古に励む姿をとらえるべく、早速“ゲ・ンバ”へ直行しました。

平日の夕方、学校帰りに飯田文化会館の工作室へ駆け込んでくる2人。この日は人形を手に各シーンの内容を深く掘り下げながらの稽古が始まりました。

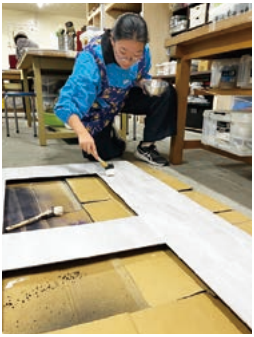
講師指導のもと、月1～2回の講座でストーリーを考え、舞台のイメージを膨らませ、人形や小道具のデザインを描き、人形をつくり…と、昨年6月からスタートし、あっという間に一年半が経とうとしています。メンバーの一人が3年生ということもあり、作品の成果発表を来年1月、飯田人形劇場で行われる定期公演と決めました。

登場人物2人のイメージ画を描く小室さん

劇中の会話に出てくるあるものの色と味のメモ

キーワードは「星」「列車」「出会い」

自分たちと同年代の女の子2人が駅で出会い、偶然にも同じ列車に乗ることから物語は始まります。静かにゆっくりとすすむ空想の世界。彼女たちの等身大の姿を思い描く作品の完成が楽しみです。



列車の車両と窓枠になるものをつくる

発砲スチロールを削り、人形のかしらをつくる

列車の中のイスやテーブルになる小道具をつくる大前さん

人形劇定期公演

日時:2026年1月25日（日）10:30開演
場所:飯田人形劇場
料金:300円 ※3歳未満無料
出演:人形劇講座ユースクラブ星の音『星降列車』
　　飯田短期大学子ども文化研究会ワトル『3まいのおふだ』

すべての道は飯田へ通ず 第40回

『飯田の空気にはまり込んで』── とうふねこ座 市川雅子

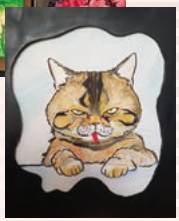
一人で人形劇を演っていた平成17年8月、蒲郡まちづくりセンター長の金子さんが、「騙されたと思っていいだ人形劇フェスタを観に行こう」と、ポイっと私を車に乗せて飯田へ連れて行ってくれました。初めての人形劇の街、飯田の空気は虹色でした。大人も子供も真剣ニコニコワクワク。人形劇を観たい人、作りたい人の大きな空気の輪に包まれるようにはまり込みました。

翌年からいいだ人形劇フェスタに参加(繊細な水引きを頂きました♡)。地区公演へもいろいろ行かせていただきました。時には前日数時間山の中を走り、翌日公演。その後、ジョイント劇団さん、地元の方々と一緒に交流会。毎回ですが、各地域の方々が参加応援して下さる事に驚きと感謝で一杯です。

昨年よりシークレットライブに参加しています。とうふねこ座は『法印様ときつね』ちょっと怖かった? ちょっと大人で、ちょっとゾクッとする人形劇を自由に上演したり、観劇できるのは飯田だからこそと思います。長く培われてきた人形劇という文化を深く表現し、広く受け止めて楽しむ豊かな飯田へ、ずっと通い続けたいです。

次号は愛知県岡崎市の「人形劇団とんかち」市川達也さんです

2023年のフェスタでは、丘の上結いスクエア2Fフリースペースで「えまねこ」の展示をしました



今年のフェスタもシークレットライブに参加。『法印様ときつね』を上演しました

Library Cafe 飯田とつながる世界の人形劇図書資料から㊿

信州の芸能

1970年頃はこうした各地の民俗芸能の出版が多く、これも地元新聞の連載をまとめて出版したもの。人形芝居は黒田、今田、早稲田と小海の親沢人形三番叟がそれぞれ4頁の記事と写真が載る。そして「ゆらい」と題した三隅治雄による的確な解説も興味深いが、何よりも写真がとても良い、被写体の人形も踊り手も生き生きと躍動している。しかし、三隅も指摘しているがこの70年代初めの時点で、すでに民俗芸能は老衰の一途を辿っているというのだ。50年が経った現在、人形芝居を含む民俗芸能はかろうじて土俵際に残るも、最後の踏ん張りどころといえる。遠からずに人々の記憶と出版物・映像の中だけに記録として残るものとなってしまうのだろうか。

(人形劇の図書館館長・潟見英明)

信濃毎日新聞社編・発行
(1974年／208頁)

ダコタのIIDA日記

Journal de Dakota

ダコタ・ミドウ　2022年5月に仏シャルルヴィル・メジェールから飯田へ。飯田文化会館で通訳や翻訳、海外とのやりとりを担当。飯田での生活の中で見たこと、感じたこと、人との出会いなどを綴ります。

国境を越える結び

こんにちは皆さん！

9月下旬出張のために地元へ帰りました。

人形劇を通じて友好提携を結ぶ、仏のシャルルヴィル・メジェール市で開催された世界人形劇フェスティバルに飯田市代表団の通訳者として参加しました。この機会にシャルルヴィル・メジェール市と飯田市の結びつきをさらに深めるためいろいろな打合せをしました。

その中で、2022年から約1年間、飯田市の龍江小学校と交流をしたことがあるノートルダム小学校へ熊谷邦千加教育長と訪問しました。校長のロイショー先生に案内してもらい、小学校の全教室を見学しました。最後に龍江小学校と交流したプレシエ先生の教室へ行きました。当時の子どもたちは中学生になっているので会えませんでしたが、現在プレシエ先生が教えている子どもたちと会いました。

飯田市やいいだ人形劇フェスタのこと、龍江小学校との交流の思い出を紹介しました。その後、子どもたちからシャルルヴィル・メジェール市の人形劇フェスティバルの発表を聞いて、当地出身の詩人ランボーの詩からイメージして描いた絵と、詩の一部を聞きました。

発表が終わったあとは熊谷教育長との交流の時間が始まりました。日本で流行しているマンガや文化、食べ物についての質問が多かったです。私たちは名物のお菓子のプレゼントをもらったので、みんなには「ぽぉ」のクリアファイルをプレゼントしました。

短い時間だったけど、みんなに出会えて良かったです！生徒たちはとても喜んでいてうれしかった。将来また会えるといいなあ～。

プレシエ先生（写真左奥）、子どもたちと一緒に記念撮影

「飯田市はどこですか？」と質問しました

劇人協会通信

映像と人形・人形劇 その17

日本人形劇人協会 理事長

友松 正人

この夏、人形劇人協会は日本テレビの24時間テレビ「愛は地球を救う」の中で放送されたドラマ『トットの欠落青春記』に上演協力をしました。黒柳徹子さんが進路をきめるきっかけになった1950年代の人形劇公演のシーンで、当時のものに近い舞台や人形の用意、撮影スタッフと台本の検討、会員の操演で撮影に臨みました。

映像の現場では当日初めて会う役者さんや子役さん、カメラ、照明、音響の技術スタッフとの協業です。セットやロケ地に合わせてその場で対応しなければならないことがたくさんあります。稽古の通り演じられるとは限らず、当日に初めて触った人形を遣うことも少なくありません。それには年数を積み重ねて、修練することが必要です。

日本人形劇人協会

舞台や映像番組で活躍している実演家と人形劇に係わる仕事を職業とする専門人形劇人の組織。人形劇人相互の親睦交流、活動条件の改善と社会的芸術的地位の向上をはかることを目的に1967年に設立されました。

人形たちとつくるコミュニティスポット ほっこり

一般社団法人ソーシャルデザインプロジェクト丘のりんごと、いいだ人形劇センターが「りんごアートプロジェクト展」をはじめて3年目。子ども・若者の創造表現を展示することで、それぞれの団体の活動を多くの皆さんに知っていただきながら、作品を通して子どもたちが自己肯定感を高められることを目指しています。

3年間の集大成となる作品は『りんごの実』です。今回は子ども・若者の作品だけではなく、地域の方々にも展示する『りんごの実』づくりにご協力いただきたく呼びかけをしています。

皆さんにつくっていただきたい『りんごの実』の素材や材料は自由、軽くて壊れにくいものをお願いします。こうして皆さんから寄せられた作品と、子どもたちのオリジナリティに富んだ作品とを一緒に展示します。

ぜひ、たわわに実ったりんごの木を見にお越しください。

「丘のりんご」を利用する子ども・若者たちが作品づくりに励んでいます。写真はりんごの木にいる虫を製作中
地域の方々の作品も募集中です。詳細はいいだ人形劇センターのウェブサイトをご覧ください

りんごアートプロジェクト展

日程:11月29日(土)～12月25日(木)9時30分～22時
場所:飯田市役所C棟市民サロン(動物園側)
観賞無料
お問合せ:TEL.050-3583-3594 いいだ人形劇センター

映像を撮るスタッフへ人形劇の長所を説明して伝えることも大切な仕事になります。状況に対応しながらも人形劇の良さを発揮することが、プロである我々の責任になります。修練する、継承する、交流する、アップデートし続ける。そんな会員が集まる人形劇人協会でありたいと思っています。

今年の人形劇の基本講座は、「パネルディスカッション・企画制作と演出～なぜ『人形劇』なのか～」と実践講座「胴串と片手遣い」でした。パネルディスカッションはアーカイブ映像(12月1日～22日配信)でご覧になれます。

人形劇の基本講座の様子
※アーカイブ配信は https://theatre.puk.jp/acad25-kihon3/ からお申込みください。

其の七

日本列島 人形劇祭の旅

下北沢国際人形劇祭

下北沢国際人形劇祭は、東京の下北沢で2年に一度開催される、国際的な人形劇フェスティバルです。日本の人形劇界ではどちらかといえば少数派の、コメディ作品やオブジェクトシアター作品を海外から積極的に招聘しています。次回の「第二回下北沢国際人形劇祭」は、2026年2月17日(火)～23日(月・祝)までの一週間の開催を予定しています。

ザ・スズナリで行われる本公演(8カ国・全8組)のほか、下北沢の老舗のライブハウスClub251で行う「第四回インターナショナル・パペットスラム」も予定しています。

パペットスラムの出演者を募集していますので、ぜひ「下北沢国際人形劇祭」ウェブサイトをご覧ください！ 10分以内(転換は5分以内)の一人芝居が対象で、出演料と交通費をお支払いします。見ている人をクスッとさせる人形劇／オブジェクトシアターの一発ネタをお持ちの方はぜひご応募ください！ 海外人形劇界へのデビューもサポートします。

下北沢国際人形劇祭 企画統括　山口遥子

写真はすべて第一回下北沢国際人形劇祭の様子

©下北沢国際人形劇祭 / Yuri Manabe / Azusa Yamaguchi

DATA

下北沢国際人形劇祭
主催:特定非営利活動法人Deku Art Forum
2024年から隔年で開催
場所:東京都世田谷区 ザ・スズナリほか
問合せ:mail:ticket@sipf.jp、https://www.sipf.jp/

並木さんぽ

今年のお正月から始まった川本喜八郎の生誕100年記念事業は年内で終了。人形の展示だけでなく月替わりでものづくり等の催しを行いました。その締めくくりはスタッフが餅をつき、その場で皆さんに振る舞おう! という企画。12月28日9時30分から。お待ちしております。
次号は2026年1月発行予定です。(帆)

掲示板　いいだ人形劇センターからのお知らせ

川本喜八郎 生誕100年 記念事業開催中

12月末まで川本人形美術館はさまざまな企画を開催中。テレビ人形劇『三国志』『平家物語』の人形を展示した常設展、特別展Ⅱ「項羽と劉邦」、月替わりのイベントなど盛りだくさん。
ご家族そろってお出かけください。

■開館時間:9時30分～18時30分
(入館は18時まで)
■入館料:一般400円、小中高生200円
■休館日:水曜(祝日は開館)、年末年始
■問合せ:TEL.0265-23-3594

「項羽と劉邦」展
11/30まで
©川本プロダクション/撮影 田村實

Dogushi Vol.51
2025年10月発行　発行:「人形劇のまち飯田」運営協議会
制作:NPO法人 いいだ人形劇センター 〒395-0044 長野県飯田市本町1-2 TEL050-3583-3594 FAX0265-52-3594 E-mail:iida-puppet-c@mis.janis.or.jp
表紙画:井原千代子